

宇宙航空研究開発機構（JAXA）が長期ビジョンを発表

宇宙航空研究開発機構（JAXA: Japan Aerospace Exploration Agency）は2005年4月に今後20年間の長期ビジョンを発表した。その詳細はJAXAのホームページ（<http://www.jaxa.jp>）にあるので参照願いたいだが、ここではそのキーワードを中心に簡単に紹介する。

まず、本ビジョンの位置づけであるが、我が国を俯瞰、独自に検討、宇宙航空分野の望ましい姿、広範な議論のきっかけ、国家戦略、政策に反映されることを期待、というキーワードが並ぶ。この中で独自に検討したというのが画期的なことである。というのは、JAXAの前身である宇宙開発事業団は今までこのような自分のビジョンを発表したことはなく、必ず宇宙開発委員会が策定したものであったからである。しかし、今回は独自で検討ということで、どことも協議はしていないため、これからの広範な議論のきっかけとして欲しいということを行っている訳である。もう一つ、宇宙航空分野と言っているのは3機関統合としてのJAXAとなり、その所掌が宇宙と航空になったことを象徴している。いずれにしても、この提案が国家戦略、政策に反映されることを期待している訳である。

現状の認識としては、宇宙開発を国の持続的発展の基盤となる基幹技術と位置づけることが重要と考えている、諸外国では、宇宙活動を安全保障と国家的課題解決のための手段として位置づけていることを示し、我が国でも議論されることを期待している。また、特に我が国では宇宙産業技術基盤が弱体化しているため、何とか強化したいことを述べている。さらにYS-11以来ほぼ40年間着手されていない民間旅客機開発について、主体的な戦略展開を何とかしたいということ。国として、宇宙航空分野の開発利用を重要な国家政策として取り組むことが不可欠。そのためにも、JAXAとしても確固たる長期的なビジョンと戦略を有することが不可欠だとしている。

基本理念に関しては宇宙開発利用と航空研究開発は、国の政策目標を達成していくための有効かつ不可欠な手段であり、重要な課題解決に貢献することは、JAXAにとっての重要な使命だとし、具体的に次の4つを掲げている。「宇宙航空技術の活用により、安全で豊かな社会をつくる」、「宇宙の謎と可能性を探究し、国民の希望と未来をつくる」、「世界最高の技術により、自在な宇宙活動ができる能力をつくる」、「宇宙航空分野で新たな基幹産業をつくる」。

2005年4月25日に経団連ホールでJAXAシンポジウムが開催されたが、そのパネルディスカッションのコーディネータでノンフィクション作家の山根一眞さんがこのJAXAシンポジウムのパンフレットに、「JAXAは地球と私たちを守ります」と書いてあり、これが従来とは随分違う発想であると感心していたのが印象的である。

長期ビジョンとしては今後20年後までを見通したことが特徴で、『世界最高の信頼性と競争力のあるロケットや人工衛星を開発し、安全で豊かな社会の実現に貢献する。また、トップサイエンスを推進するとともに、独自の有人宇宙活動や、月の利用への

準備を進める。さらにマッハ5クラスの極超音速実験機の実証を行う。これらにより、宇宙航空の基幹産業化に貢献する。』としている。

さらに、提案した理念に基づいてより具体的に5つに纏めて書かれている。

ビジョン(1)「宇宙航空技術を活用することで、安全で豊かな社会に貢献する」。

ビジョン(2)「宇宙の謎と可能性を探究することで、知の創造と活動領域の拡大に貢献する」。

ビジョン(3)「世界最高の技術により、自在な宇宙活動を確立する」(世界最高の信頼性と競争力を有するロケットと軌道間輸送機の実現, 独自の有人宇宙活動を可能とする技術の確立等)。

ビジョン(4)「自立性と国際競争力をもつ宇宙産業の成長に貢献する」。

ビジョン(5)「航空産業の成長への貢献と将来航空輸送のブレークスルーを目指す」。

大事なのは、このビジョンでは今後20年間を見通すことにしているが、それを前半の10年と後半の10年に区切り、前半の10年については、宇宙開発というのは今後10年間は既に決まっているようなものであるので、具体的にそれらに取り組んで行くというもの、後半の10年では国の判断を待ちながら、より将来の、例えば、月の利用や独自の有人宇宙活動の実現に取り組むとしていることである。

ここで本会に関係すると思われる例について述べると、「安全で豊かな社会の実現への貢献」ということに関して、衛星を活用し、誰もが、いつでも、どこでも、災害や地球環境の現況や将来予測を知ることができ、必要な通報を受け取り、情報を発信できる統合観測・監視・通報システムを実現するとして、図1に概念図を示すような「災害・危機管理情報収集通報システム」の実現を目指すとしている。

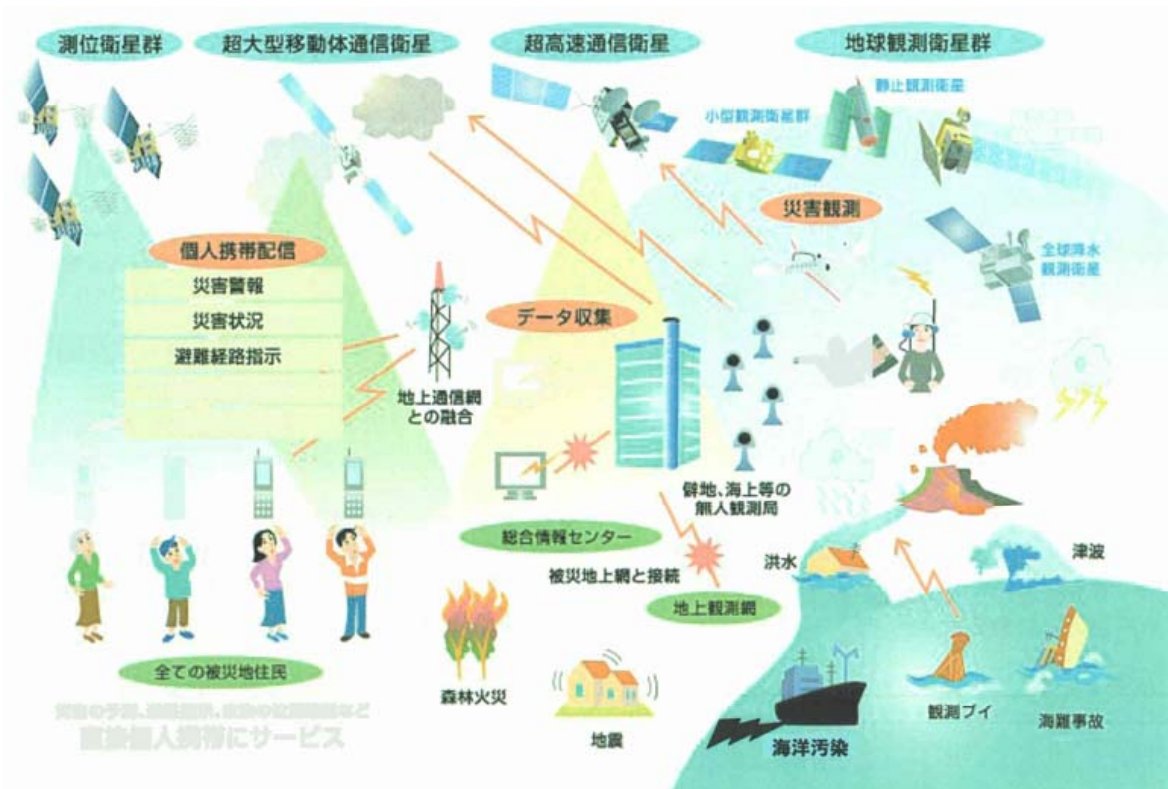


図1 災害・危機管理情報収集通報システム (イメージ)

最後に、人材育成と国際協力のような横断的な取り組みがいくつか提案されている。人材育成、特に、子供達に対する教育への寄与に関しては、JAXAでも4月から宇宙教育センターが発足し、この方面に力を入れていこうとしている。最近、子供達の理科離れが言われ、それを防止するための取り組みが行われており、例えば、簡単な理科実験を見せてこんなに理科は面白いということを示そうとしているようである。私はこのような取り組みを否定する者ではないが、私の子供の頃を考えるとそのような実験は全然面白くなかった。やはり面白いのは実物を見ること。特に宇宙というのは実物を見て、その迫力に感動する最もよい例だと思うので、その効果を期待する訳である。

それから予算のことが書いてある。年間2500から2800億円必要だということで、今のように宇宙予算が減る前は2400億円はあったということであるので、可能な数値ではないかと思われる。

本ビジョンの最後には図2に示すロードマップが示されている。

以上。

(編集顧問 飯田尚志 記)



図2 長期ビジョン全体のロードマップ